

12フィートディングー（A級ディングー）欧州大会に参加して

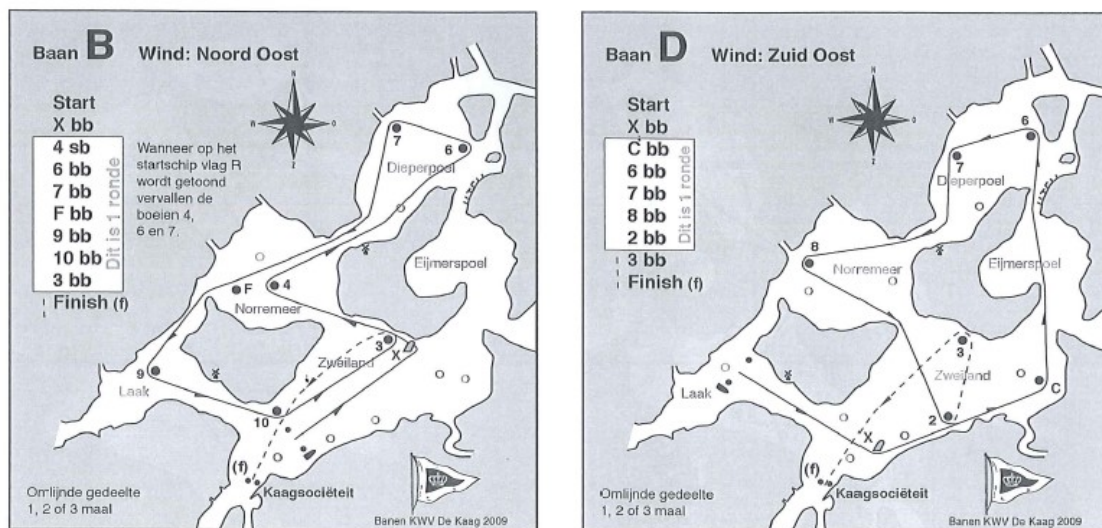
淡青A級ディングー倶楽部

田中 一光(S49 卒)

日本A級ディングー協会より、日本A級ディングー選手権大会25年記念誌を発行するにあたり、私が過去5回程参加したオランダやイタリア等で開催された12フィートディングーの大会について書くようにとのことです。少し述べさせて頂きたいと思います。稚拙な文章でお見苦しいとは思いますが、ご勘弁ください。

日本では「A級ディングー」と呼ばれている「12フィートディングー」は、英国人 Cockshott が1912年にデザインした艇で、1932年に日本に導入された際にその設計図に「A-Class」と書かれていたので、日本では「A級ディングー」との名称となったとのことです。

ヨーロッパで開催される12フィートディングーの大会に興味を持つようになったきっかけは、弊社ヨット部(東大ヨット部)のOB有志で2010年に発足した「淡青A級ディングー倶楽部」のメンバーとなり、その年に小戸で開催された全日本A級ディングー選手権大会に参加したことでした。小戸の大会でこれまで幾度となくオランダやイタリアの大会に参加されている阪大OBの前田英雄先輩や京大OBの谷健史先輩からヨーロッパの大会の様子を伺い、一度参加したいという気持ちになりました。そして、2011年6月にオランダ、アムステルダム郊外のカーグ湖で開催された「ペンテコスタレガッタ」(聖霊降臨祭レース)に初めて参加致しました。ペンテコスタレガッタの特徴はコースにあります。(図一①参照)



(図一①：コースの一例、当日の風向と風速によってコースが選択されます)

カーグ湖は干拓により作られた湖です。湖の中に土が盛られてできた島がいくつかあり、湖に設置された幾つかのマークと周りの島を回るコースです。1レースのタイムリミットは通常は90分。風と風向によってカーグ湖の周りの運河を通るロングコースも設定されることがあり、この場合のタイムリミットは180分だっと思います。また、運河の方が周りの畑の土地よりも水面が高いので、畑を見下ろしてセ

ーリングすることになります。

オランダの大会に参加して地元ホストクラブのホスピタリティや参加者との交流に魅了されたため、その後、イタリア 12 フィートディンギー協会(AICD)が中心となって開催する大会、ポルトローシュ大会(スロベニア、2012)、ナポリ大会(2013)、ポルトフィーノ大会(2014)、ブラチアーノ大会(ローマ近郊、2015)に参加致しました。



(2012年ポルトローシュ大会 スタート後)
遠くの道の

もいます。日本から参加している我々にもスイスやドイツの選手から今度は自分達の国のレースに参加しないかと盛んに誘われますが、年に何回もヨーロッパまで遠征できないので、残念ながらこれまでは他の国のレースには参加できていません。機会があれば、スイスやドイツでの大会にも出てみたいと思っています。

レースの参加者も色々です。参加艇の数は大会により多少の違いはありますが、FRPとWood艇を合わせて50艇位から多い時で80艇近くの参加艇が集まってきます。



(2013年ナポリ大会 オランダからのお母さんと娘)

イタリアでは12フィートディンギーが200艇以上も登録されているようで、5月から11月頃にかけて、毎週のように各地でレースが開催されているようです。それらのレースに彼らは船を自分の車に積んだり、ディンギー用のトレーラーで引っ張ってきてレース会場に集まってきます。イタリア国内からの他にもスイスやドイツ、トルコ等の周りの国からも参加してきます。中には何百kmもの

りを自分の車で引っ張ってきている参加者も



(2013年ナポリ大会 スタート時)

ヨーロッパでは12フィートディンギーは基本的には一人乗りですが、中にはお祖母さんやお祖父さんと孫のペアやお父さんやお母さんと子供のペア、また若い女性同士や恋人同士にカップル等での参加もあります。参加者のうち上位20名位は常に優勝を狙っているレースに熱心なセーラー達なのですが、それ以外に人達はレースや大会を楽しんでいるという、非常にアットホームな雰囲気、ヨーロッパではセーリングは本当に身近なスポーツなんだなと実感いたしました。

日本のA級ディンギーはこのままでは高齢化が進んでいきますので、若い人達やこれまで余りセーリングの経験のなかった人達も呼び込むような工夫が必要なのではないかなと思いました。

大会やレースの運営は開催地のヨットクラブが中心になって行われています。ハーバーからの艇の出し入れもクラブの屈強な若手が手伝ってくれるので、浜からの上げ下ろしも大変楽です。どの大会でも大会期間の中日に懇親パーティ（イタリアでは“Gara Party”と云っています）が催され、そこにはレース参加者の他にも大会スポンサーや地元クラブのメンバーも大勢参加し、クラブ関係者達の手料理でもてなされ、時にはヨットクラブのレストランのコース料理が振る舞われることもありました。



(2013年ナポリ大会 父親と息子)



(2015年ブラチアーノ大会 ハーバーでの野外 Gara Party)



(2015年ブラチアーノ大会 地元クラブの手作りのご馳走)

ヨーロッパの大会に参加することのもう一つの楽しみはレース後にあります。大会の開催地は主要都市の近くのリゾート地や観光地であることが多いので、大会終了後は近郊の観光を楽しむことができます。機会がありましたら、是非皆さんもヨーロッパでの12フィートディンギー大会に参加されて、ヨーロッパのセーラーの皆さん達との交流を楽しまれることをお奨めします。これまで参加した大会の写真を添付致しましたので、雰囲気を感じて頂ければ、幸いです。

また、イタリア12'ディンギー協会のクラシック部門のHP (<http://www.dinghy12classico.it/home.asp>)の「Galley」をクリックしますとイタリア各地で開催されてました大会の写真が掲載されています。ヨーロッパでの12'ディンギーの活動の様子が分かりますので、お時間のある時に覗いてみてください。

以上